



北島 文孝

がん検診の受診率アップ
対策は

市長 公開講座等を開き、
啓発に努める

北島 各種がん検診の受診率に、大きな差がある。特に胃がん検診の受診率が15%と低いのはなぜか。(別表)

北島 昨年厚労省が、町村の検診事業にバリウムを飲んで検査をするより、胃カメラによる検査がより効果的であるという報告を出したが、小城市はいつの時期より検診事業に取り入れるのか。

福祉部長 胃がんの検診率が低いのは、バリウム検査への抵抗感、また個人で病院での胃カメラによる検査を受診されている方は、受診率に反映されていない。

福祉部長 小城市としては平成29年度に導入したいと考えている。

北島 それではなぜ29年度の当初予算に計上していないのか。

福祉部長 市長選挙があり、骨格予算のため計上できなかった。



▼小城市がん検診受診率

	肺がん	大腸がん	子宮がん	乳がん	胃がん	前立腺がん
平成23年度	33.5%	25.6%	47.2%	41.4%	18.2%	31.2%
平成24年度	32.7%	24.9%	45.1%	42.5%	17.1%	31.2%
平成25年度	31.9%	24.8%	41.7%	37.9%	15.6%	29.9%
平成26年度	31.3%	24.9%	64.1%	67.9%	15.0%	31.1%
平成27年度	32.9%	26.7%	65.0%	70.8%	14.9%	31.6%

※平成26年度から子宮がん(20~69歳)、乳がん(40~69歳)の受診率(国基準)

広報編集特別委員会 視察研修報告

(期間) 1月23日~24日
(目的及び視察地)
●議会広報について
(広島県東広島市)
(広島県三原市)

としては、
・市議会だよりの編集
・ウェブサイトの編集
・議会報告会及び意見交換会の企画及び調整
・市民アンケート調査やパブリックコメントなどをやっている。

り込み、または郵送で配布している。
特筆すべきは、社会福祉協議会に登録している朗読録音グループ「声の友」へ依頼してCDによる声の議会だよりを作成し、市のホームページに載せていた。

東広島市は人口18万の都市である。議会広報は、年4回発行され、編集は各党派から選出された10名の委員で構成する「広報広聴委員会」で作成し、配布は、自治会組織がない約半数の世帯には、郵送や配達業者によるポスティングなどの方法がとられていた。
平成25年4月に制定された「議会基本条例」では議会の情報を積極的に発信し、説明責任を果たすことと、広く市民との意見交換の場を設けることが定められており、これらを具現化させ、広報広聴機能を充実させるために「議会広報委員会」から「広報広聴委員会」へ改称し、委員会の活動

今後の課題として、広報だけではなく広聴もあわせて組織で取り組むことを研究中であった。

で働く人から取材をして「介護現場最前線」という特集や、18歳選挙をきっかけに政治や議会についての関心が持てたらしいとの思いから、担当の委員が市民を対象に取材を行い掲載することで、市民にとって親しみやすい「市議会だよりの」を目指した取り組みがなされていた。



▲三原市議会の視察研修